

第5回一橋大学ガスエネルギー研究会(HGES)
(2013年11月27日)

露エネルギー産業のアジア太平洋戦略と 日露協力へのインプリケーション

東京財団研究員
畔蒜泰助

ガスプロムへの ガス輸出独占権付与の経緯

- ・2002/06 ロシア・ドイツ両政府はウクライナ政府との間で、同国を通過する天然ガスPLを共同管理することで基本合意する。
- ・2004/12 ウクライナ・オレンジ革命で親欧米派のヤヌコビッチ政権が誕生する。
- ・2005/09 プーチン大統領とシュレーダー独首相の立会いの下、ガスプロムとドイツ企業2社は両国をバルト海経由の海底パイプラインで直接繋ぐノルド・ストリームの建設で合意する。
- ・2006/01 ロシアがウクライナに対してガス供給を一時停止した。
- ・2006/05 チェイニー米副大統領がリトアニアの首都ヴィリニウスで激しいロシア批判の演説を行う。
- ・**2006/07 天然ガス輸出に関する連邦法が採択され、ガスプロムにガス輸出の唯一の権利が与えられる。**
- ・2006/07 サンクト・ペテルブルグでG8サミットがエネルギー問題を主要テーマに開催された。

東方ガス化計画策定の経緯

- ・2006/03 プーチン大統領の訪中時、ガスプロムと中国CNPCが年間680億m³の天然ガスを西方・東方の二本のパイプラインを通じて供給することで基本合意した。
- ・2006/07 天然ガス輸出に関する連邦法が採択され、ガスプロムにガス輸出の唯一の権限が与えられる。
- ・2006/12 ガスプロムがサハリン・エナジー社の株式51%+1株を74億5000万ドルの譲渡価格で取得することで合意した。
- ・2006/12 プーチン大統領がロシア安全保障会議の会合で極東地域の状況はロシアの安全保障に脅威を与えていると発言した。
- ・2007/09 連邦産業エネルギー省の省令により、「中国並びに他のアジア太平洋諸国への潜在的なガス輸出を考慮に入れた、東シベリア・極東における統合的なガス生産・輸送・供給システムに関する国家開発計画(東方ガス化計画)」が承認された。ロシア連邦政府はガスプロムを政府調整役に任命した。
- ・2007/09 シドニーAPECで2012年9月のウラジオAPEC開催が決定した。

東方ガス化計画

4大ガス生産地から日中韓朝に供給するネットワーク計画



(月刊FACTA 2011年11月号から)



ガスプロムの迷走 —ウラジオLNGプロジェクト—



- ・2009年5月以来、ガスプロムと資源エネルギー庁並びに極東ロシアガス事業調査会社（伊藤忠商事、JAPEX、丸紅、INPEX、伊藤忠石油開発が出資）の主導で検討されている新規LNGプロジェクト。
- ・ガスプロムがアジア太平洋市場向けに立ち上げを試みる事実上、最初のLNGプロジェクトで、現計画では、ウラジオストック近郊に最大1500万t/yのLNGを生産。最初の系列（500万t/y）は2018年に稼働を目指す。
- ・天然ガス供給源候補は、サハリン-1、サハリン-3、チャヤンダの3つ。

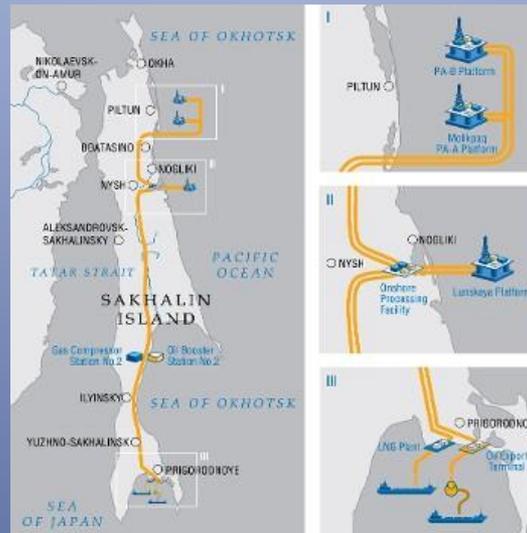


現時点でガス供給源確保の目途が立っていない。



ガスプロムの迷走

ーサハリン-2 LNGプラントの増設計画ー



- ・2006年12月、ガスプロム社はサハリン・エナジー社との間で、前者が後者の株式50.1%を取得することで合意。本合意後の持分比率はガスプロム(50%+1株)、シェル(27.5%)、三井物産(27.5%)、三菱商事(12.5%)。
- ・2009年3月、サハリン-2 LNGプラントは最初のLNGを日本に納入。同プラントの生産能力は福島前960万t/年、福島後1040万t/y。
- ・サハリン・エナジー社はサハリン-2 LNGプラントに第三系列(500万t/y)を増設する計画があるが、サハリン-2にはこれ以上の生産余力はなく、新規天然ガス供給源の確保が不可欠。
- ・その天然ガス供給源候補はサハリン-1、サハリン-3である。



現時点でガス供給源確保の目途が立っていない。

LNG輸出の自由化①

- ・2012/09 仏トタル社と共に北極海に面したヤマル半島に新規LNGプラントの建設を計画する露ノヴァテック社が露エネルギー省にLNG輸出の自由化の要請を正式に行う。
- ・2012/12 露ロスネフチ社もLNG輸出の自由化を巡るロビイングに加わる。これ以前、同社のセチン社長はLNG輸出の自由化に反対の立場だった。
- ・2013/02/13 露エネルギー産業に関する大統領委員会(セチン露ロスネフチ社長が事務局長)の場で、プーチン大統領が初めてLNG輸出の独占体制の段階的な自由化の可能性に言及。
- ・同日 2011年8月の北極海沖資源開発での戦略的提携以来、緊密な関係にある露ロスネフチ社と米エクソン・モービル社が、極東地域での新規LNGプラントの建設プロジェクトの可能性を検討すると発表。



当初から欧州市場におけるガスパロム社の戦略的重要性を考慮し、パイプライン経由での天然ガス輸出の自由化は検討対象から外された。

LNG輸出の自由化②

・2013/11/22 ロシア下院はLNG輸出の自由化に関する法案の第二・第三読会を終え、通過した。これにより、ガスピロム以外に以下の2つのカテゴリーに当てはまる企業にLNGの輸出権限が与えられた。

・連邦規模の資源規模を持つ鉱区の資源利用者がLNG工場を建設するか、生産されたガスの液化の為にLNG工場に送ることが、2013年1月1日時点でライセンスの中で想定されているもの。



露ノヴァテック社と仏トタル社のヤマルLNGプロジェクトが該当

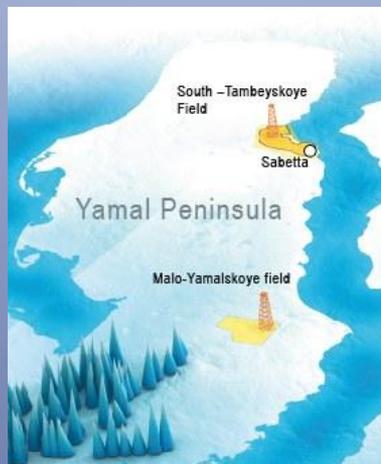
・黒海やアゾフ海を含むロシア内海・領海・大陸棚の鉱区を利用するロシアの持分が50%以上の国営会社で又はその50%以上の子会社で、上記の鉱区で生産されたガスか、本法律が発効する以前に締結されたものを含め、PSA契約の実施により生産されたガスからLNGを生産するもの。



露ロスネフチ社が該当



ヤマルLNGプロジェクト



- ・ヤマルLNGプロジェクトは最大生産能力1,650万t/yで三段階(2016年/2017年/2018年)に分けて550万t/yずつ建設する。天然ガス供給源は南タンベイスク鉱区他である。
- ・2013年4月、ヤマルLNG社は仏テクニップ社と日揮の合併会社に同LNGプラントに関する有償見積り及び詳細設計役務等に係る発注を行う。
- ・2013年6月、ノヴァテック社と中国CNPC社は、後者によるヤマルLNG社の株式20%の取得に関する枠組み合意に調印。
- ・2013年9月、ノヴァテック社と中国CNPC社は、後者がヤマルLNG社の株式20%の取得することで合意。最終確定は2013年12月1日までに完了すると発表。
- ・2013年10月、ノヴァテック社はCNPC社との間で最低300万t/yのLNGを供給することで基本合意。また、その価格体系も米ヘンリーハブ・リンクではなくJGCリンクで行うことで合意。
- ・2013年11月、ノヴァテック社はスペインのFenosa社との間で、250万トン/yのLNGを供給することで基本合意した。



極東LNGプロジェクト



- ・2013年2月、ロスネフチ社とエクソン・モービル社は、極東地域における新規LNGプラントの建設の可能性を検討することで合意。建設場所としては、サハリン南西部のイリンスキー港~~X~~が最有力。
- ・当初のLNG生産量は500万t/yで、2018年の稼働予定。
- ・天然ガス供給源候補はパートナーの米エクソン・モービル社がオペレーターを務めるサハリン-1。
- ・2013年6月、ロスネフチ社は丸紅(125万t/y)、SODECO(100万t/y)、Vitol社(275万t/y)の各社とLNGの供給に関する合意文書に調印。
- ・2013年9月、ロスネフチ社と米エクソン・モービル社は 初期段階の front end engineering and design (FEED)の業務をCB&I UK社と Foster Wheeler Energy社に発注。

(※)2013年11月、ロスネフチ社、ガस्पロムバンク社、ソヴコンフロート社は韓国の大宇造船海洋エンジ社との間で、沿海州のズヴェスタ造船所の拡張工事で協力することで合意。

現状評価

- ・プーチン大統領の全面支援を受け、ノヴァテック社のヤマルLNGプロジェクトが先行。因みに、LNG輸出自由化に関する法改正の発行は2013年12月1日で、これはノヴァテック社とCNPC社の契約の最終合意予定日と一致。
- ・これを追うのがサハリン-1の天然ガス供給源を押さえるロスネフチ社で、サハリン-1が駄目なら、今のところ、本格生産見込みが立たないサハリン-3とチャヤンダのガスプロム社は最後尾。サハリン-1を巡っては、ロスネフチ 対 ガスプロムの構図。
- ・サハリン-3(特に南キリンスキー鉱区)の本格生産見込みは来年度以降に持ち越し。
- ・チャヤンダに関しては、年内にも懸案の露中PLガス交渉が価格面を含めて最終決着すれば、チャヤンダとウラジオストックを繋ぐ「シベリアのカ」パイプライン建設の着工されるので、天然ガス供給源確保の目途が立つ。
- ・その意味で、CNPC社がヤマルLNGプロジェクトへの20%出資並びに同プロジェクトからのLNG供給を巡る価格フォーミュラ(JGCリンク)で合意したことが、上記価格交渉にどのような影響を与えるか、要注目。
- ・全てに関して言えることは、これらのLNGプロジェクトが北米のそれを含む他の競合プロジェクトと比較して、適切なタイミングで、尚且つ競争力のある価格を提示できるか、が大きな焦点。

参考

－PLガス輸出の自由化問題－

- ・2013/10 ロスネフチ社のセチン社長は記者からの質問に答える形で「2018年、ロスネフチ社はLNGの輸出を準備しており、ガスプロム社のパイプライン経由での天然ガス輸出に関する問題を提起する積もりはない」と述べている。
(2013/10/07 露フィンマーケット通信)
- ・2013/10 ロスネフチ社とCNPC社は東シベリアの天然ガス鉱区の共同探鉱・開発で合意した。前者が51%、後者が49%を保有する。
東シベリアから中国への天然ガス輸出はパイプラインのみで可能であり、「ロスネフチ社がパイプライン経由での天然ガス輸出問題を提起するのは時間の問題」との見方あり。(2013/10/21 露ベードモスチ紙)
- ・2013/11 プーチン大統領はバリAPEC・CEOサミットでの講演で、朝鮮半島横断PL建設の可能性について再言及。これを受けて、ガスプロム社は同プロジェクトの実現可能性を再検討すると発表。先日のプーチン大統領の訪韓時にも中長期の検討課題として取り上げられた。